ステークホルダーダイアログ

外部有識者との対話を経営に活かす

グローバル経営を変革させる起点としてのSDGs

平野 拓也様

横地 晃様

富士通グループでは、様々なステークホルダーの意見を経営に活かすため、外部有識者と社内幹部によるダイアログを 開催しています。SDGs達成への貢献を起点としてICT企業が認識すべき機会とリスク、グローバル経営にとって必要な ブレイクスルー、そして、それらを企業の持続的な成長に向けた経営戦略にどう結び付けるかについて、活発な議論が 交わされました。



・ダイアログを終えて -

有識者



スコット キャロン様

日本マイクロソフト株式会社 代表取締役社長 平野 拓也様

グローバルICT企業として、社会により大きなインパクトを与える活動を

田中 達也

企業として重要なのはミッションやトップの強い思い。この2つを一貫性を持って体現していけば、会 社の文化も変えられる。技術の発展にはプラスとマイナス側面がつきものであり、クラウドでも、信頼 性、アカウンタビリティ、インクルーシブへの配慮が重要だと考えている。

谷口 典彦

塚野 英博

佐々木 伸彦

富士通はグローバル展開の規模も大きくICTを生業とする企業として様々な分野に関われるのだか ら、世界中の社員と喜びを共有できるような大きなインパクトのある活動を、多くの企業や業種を巻き 込んで実施してほしい。また、その際には安心と安全の提供をベースラインとして、ICTへの信頼性を 高めていくことを期待している。



いちごアセットマネジメント株式会社 代表取締役計長 スコット キャロン様

企業の存在意義は社会への貢献であり、富士通のグローバルにおける貢献に期待している

富士通が本業を通じてSDGsに積極的に貢献することは株主として大いに賛成する。プラスの活動 に取り組むとともに、17の目標と自らの事業活動を照らし合わせて、社会を毀損している点がないか、 マイナス面を十分にチェックしてほしい。

また、世界への貢献を目指すためには、まずは足元から行動することも重要だと考えている。SDGs を事業に組み込んで正当な利益を上げられるよう、浅く広くではなく選択と集中を行って世界中の富 士通グループ社員が「自分事 | としてぜひ取り組んでいってほしい。



外務省 国際協力局 地球規模課題総括課

横地 晃様

社会を変えていく動きを富士通が後押しするよう期待する

SDGsは先進国も取り込んだ世界全体の目標で、キーワードは「誰一人取り残さない」。子供の貧困 など、日本の現状に当てはまる目標も多く、我々の日常生活に深くかかわっている。また、相互関連性 という特徴もあり、1つの目標に取り組むことでほかの複数の目標にも影響を及ぼすようになっている。

富士通にはグローバルな事業活動による貢献を期待するとともに、目の前のことからも変えていく という姿勢にも期待したい。マイナスを減らしプラスを増やすという富士通の活動に触発されて同じ動 きを取る企業が業界内外で増える、といううねりを官民一体となって一緒に作っていきたい。

富士通



田中 達也

グローバルスケールを活かし、全社員がベクトルを合わせてSDGs達成に貢献する

ICTは空気や水と同様、今や人々の生活や企業活動に必要不可欠であるため、富士通はSDGsのすべ てのゴールと関連を持つことができる。これこそ私がSDGsを支持する理由であり、ICTによって「人を 幸せ」にしたいと考えている。SDGsの理念を理解したうえで世界と連携して、SDGsの中でも「この領 域は富士通だ」と言える分野を確立したい。富士通が具体的に貢献する分野を定め、富士通全社員が ベクトルを合わせて取り組んでいけるよう、シンプルなメッセージとして発信していきたい。

また、座談会を通じて、改めて外部の方から意見を頂戴し、その声を自らの変革につなげていく必要 性を痛感した。安心・安全をベースに、他社や社会を巻き込んで社会により大きなインパクトをもたら す活動を積極的に立ち上げて推進していく。そして、その結果に対してさらなるご意見を頂戴すること で、社会の期待に応える企業として変革に継続的に取り組み、事業を通じたSDGsの達成に積極的に貢 献していく。



(事業部門担当) 谷口 典彦

SDGsを起点に、より柔軟なイノベーションの検討を

富士通が持つ各分野でのシステム構築の知見をつなぎ合わせることで、新たなものを生み出し、社 会を変革する力に変えていくナレッジインテグレーションを進めているが、SDGsとして17の目標が設定 されたことで、社会への貢献と事業を一致させやすくなったと感じている。

Goal9の「イノベーション」に対してはすでに多種多様な取り組みを行っているが、今日の議論から、 ほかの16のゴールについて身近な点から柔軟に考えることで、他者を巻き込んだ「イノベーション」に つながるのではないかというヒントを頂いた。ぜひ実践を検討したい。



(グローバルコーポレート部門長) 塚野 英博

SDGsは世界市民としての義務であり、そうなるためのチケット

富士通のDNAであると同時に会社のイデオロギー(理念)、つまり当社の本業の本質は社会に貢献 することであり、それはSDGsの17の目標のどこかに必ずつながるものと考えている。よって、目標が あるから取り組むのではなく、17の目標を理解し、本業で努力した結果が自然につながっているという 姿を目指したい。

SDGs は、富士通が社会への貢献というイデオロギー (理念)を全うするうえで、活動への取り組み そのものが世界市民としての義務であり、チケットであると考えている。広くコンプライアンスという 意味におけるマイナスチェックやブームにならないよう真の目的である持続性の維持、ダイバーシティ への取り組み強化など、頂戴したご意見に対して取り組んでいきたい。



執行役昌事務 / (S∩ (グローバル戦略、環境·(SR担当) 佐々木 伸彦

ビジネスモデルの中核にSDGsの目標を取り込んでいく

富士通としてSDGsに本格的に取り組めるかどうかの分水嶺は、ビジネスモデルの中核にSDGsの目 標を重ね合わせられるどうか。SDGsをグループ15.5万人が総合力を発揮する共通言語とすることで、 全員で同じ目標に向かって走っていくことができる。

SDGsへの取り組みは目標と各事業のタグ付けから始まるのだろうが、これだけでは自分の仕事の正 当化にしかならない。各事業と大目標であるSDGsの間に置く中目標・小目標を考えることで欠けてい る活動を把握し、大目標への貢献分野を見出す。加えて、足元からできる小さな取り組みも重視して いく。

今回の対話を通じて、改めてSDGsと企業の責任や行動 を、多くの方々と一緒に考えていく重要性を認識しました。 SDGsという2030年に向けた未来像を前にして、私たちは 何を考えなくてはいけないか、特にマイナスをしっかりと 捉えて社内制度を整え、より大きく社会に対してインパク トを与えていくにはどうしたら良いか、よりスケールのある 貢献の実現に向けて、頂戴したご意見を基に、さらなるテ クノロジーの革新と自らの変革に挑んでいきます。

ダイアログの詳細は、当社Webサイト(企業情報/社会・環境分野の取り組み/ お客様・お取引先とともに/ステークホルダーダイアログ)をご覧ください。 http://www.fujitsu.com/jp/about/csr/society/dialog/